

一須賀 D 8 号墳の測量調査

犬木 努・近藤 麻美・松本 祐樹
田中 稔・北畠 俊

1. はじめに——須賀古墳群の概要——

一須賀古墳群は、大阪府南河内郡河南町および太子町に所在する群集墳である。いわゆる磯長谷の南に位置する丘陵上に立地し、東西約 1 km、南北約 1.2 km の範囲に約 260 基の円墳が分布する。支群の理解については諸説あるが、近年では、A～U・W・WA 群という 23 の支群に分けられている（大阪府立近つ飛鳥博物館 2008 など）。築造時期は、6 世紀前葉から 7 世紀前葉に及ぶ。

この地に所在する古墳については、江戸時代の河内名所図会などにも記述が見られるが、考古学的な調査が行われたのは、上野勝己による分布調査を嚆矢とする（上野 1966）。1968 年から 1969 年には、住宅開発の事前調査として WA 支群 30 基の発掘調査が実施されている。その後、1971 年に大阪府教育委員会による分布調査が行われる一方、1972 年から 1974 年には史跡整備および公開を目的として 31 基の古墳の発掘調査が実施されている。

1986 年には大阪府立近つ飛鳥風土記の丘公園がオープンし、1994 年には一須賀古墳群が国史跡に指定されるとともに、大阪府立近つ飛鳥博物館が開館し、現在に至る。

一須賀古墳群については、発掘調査の成果が未刊のものも多く、その全体像については不明な点も多いが、宮崎泰史により一須賀古墳群の基礎情報がまとめられているほか（宮崎 2006）、いくつかの古墳について新たに測量調査が実施されている（大阪大学考古学研究会 2009・2010・2011a・2011b）。

2. 大阪大谷大学による測量調査

大阪大谷大学歴史文化学科（旧・文化財学科も含む）では、2012（平成 24）年度に K 11 号墳・K 12 号墳（犬木ほか 2013）、2013（平成 25）年度に K 9 号墳・K 10 号墳・K 13 号墳（犬木ほか 2014）、2014（平成 26）年度に L 3 号墳（犬木ほか 2015）、2015（平成 27）年度に L 4 号墳（犬木ほか 2016）、2016（平成 28）年度に D 4 号墳、2017（平成 29）年度に D 5 号墳・F 3 号墳（犬木ほか 2018）、2018（平成 30）年度に F 2 号墳（犬木ほか 2019）、2019（令和元）年度に E 1 号墳（犬木ほか 2020）、2021（令和 3）年度に E 2 号墳の測量調査を実施している。

昨年度をもって E 支群の測量調査が終了したため、今年度は、2016・2017 年度に引き続いて、D 支群に所在する 8 号墳の測量調査を実施した。

3. 一須賀古墳群 D 支群について

一須賀古墳群 D 支群は古墳群の中でも南側に位置しており、北側に C 支群、北東側に F 支群、東側に E 支群、南西側に G 支群が立地する。1971 年に大阪府教育委員会によって行われた分布調査では、D 1 号墳～D 13 号墳の 13 基が確認されているが（大阪府教委 1971）、1973 年に行われた発掘調査の結果、D 1 号墳



図1 一須賀古墳群と周辺の古墳群 (大阪府立近つ飛鳥博物館2008より、一部改変)

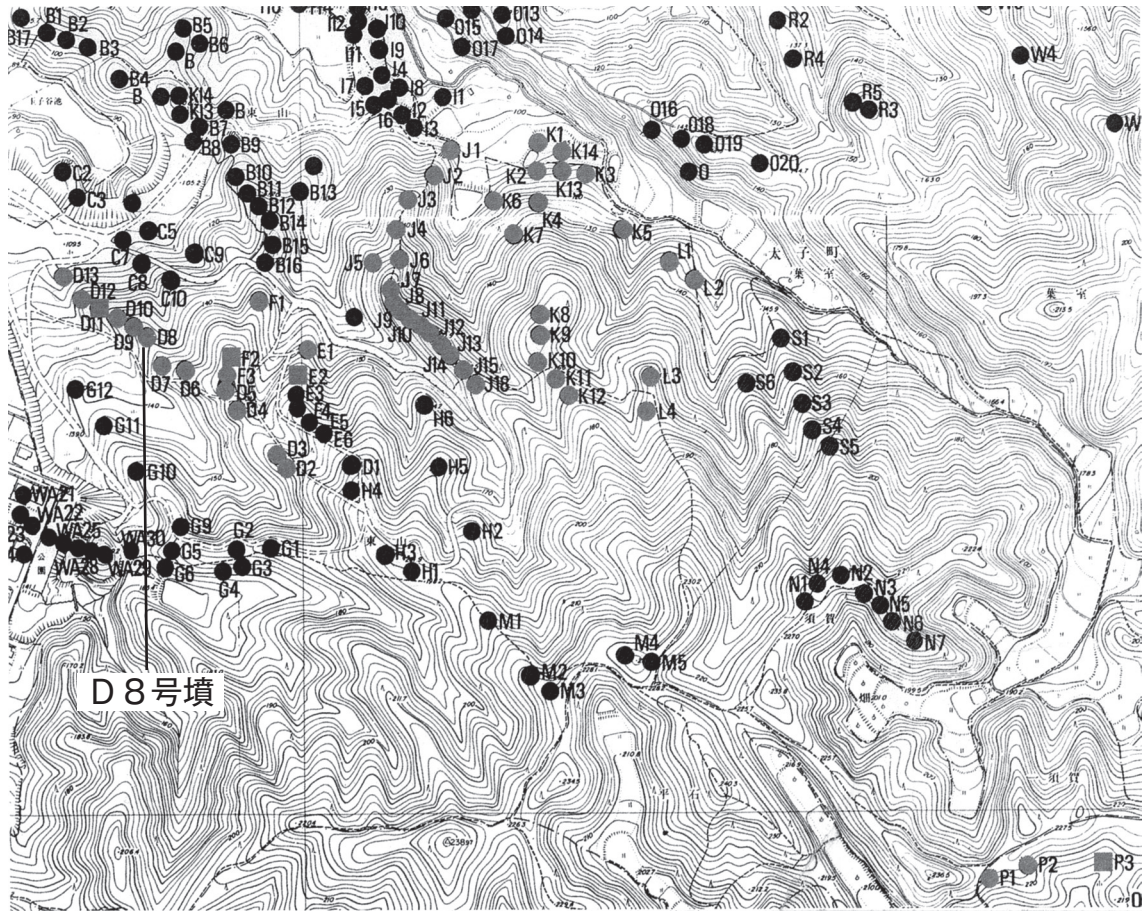


図2 一須賀D8号墳とその周辺（大阪府立近つ飛鳥博物館2005より、一部改変）

については古墳ではないことが確認された（大阪府教委1975、宮崎2006）。

D2号墳・D3号墳以外の発掘調査の詳細は未報告であるが、調査概要については『一須賀古墳群の調査V』に掲載されている（大阪府立近つ飛鳥博物館2005）。

4. 一須賀D8号墳における過去の調査

今回、測量調査を行った一須賀D8号墳は、1971年、大阪府教育委員会による分布調査で確認された古墳で（大阪府教委1971）、直径18m、高さ4mの円墳とされている。1973年に大阪府教育委員会によって横穴式石室の発掘調査が実施されている（大阪府立近つ飛鳥博物館2005）。

南西に向かって開口する右片袖式の横穴式石室で、玄室および羨道の天井石が除去されている。全長6.31m、玄室長3.08m、同幅1.97m、羨道長3.23m、同幅1.35mをはかる。石室内からは須恵器・土師器・鉄釘が出土している（同前）。

5. 測量調査の経過

今回の測量調査は、大阪大谷大学歴史文化学科を調査主体とし、同学科の犬木を調査担当者として、2022（令和4）年8月6日（土）から8月24日（水）に実施した。古墳周辺の草刈り・伐採、測量基準杭設置、トラバース設定など、測量調査の準備作業に実質4日間、実際の測量作業には実質5日間を要した。

調査の経過は以下の通りである。

- 8月6日（土）機材搬入、草刈り・伐採等
- 8月12日（金）測量基準杭設置、レベル移動、トラバース設定
- 8月13日（土）測量基準杭設置、レベル移動、トラバース設定
- 8月14日（日）測量基準杭設置、レベル移動、トラバース設定
- 8月15日（月）～19日（金）作業なし
- 8月20日（土）測量調査
- 8月21日（日）測量調査
- 8月22日（月）測量調査
- 8月23日（火）測量調査
- 8月24日（水）測量調査、機材撤収

歴史文化学科の教員も含めた調査参加者は以下の通りである。参加人数は合計18名、内訳は、教員1名、卒業生2名、大学院生3名、学部生12名である。

- 犬木 努（本学歴史文化学科教授）
- 松本祐樹（本学文化財学科卒業生 [2010（平成22）年3月卒業]）
- 中野徒仁（本学歴史文化学科卒業生 [2019（平成31）年3月卒業]）
- 田中 稔（本学大学院文学研究科歴史文化学専攻博士後期課程学生）
- 木谷智史（本学大学院文学研究科歴史文化学専攻博士後期課程学生）
- 北畠 俊（本学大学院文学研究科歴史文化学専攻博士前期課程学生）
- 井上奈月（同上4回生）
- 田中麻結・都築海人・平井遼介（同上3回生）
- 青なつみ・浅岡大輝・井上陸人・大石彩渚・玉野航輝・弦牧尚駿・平井涼太・松本 陸（同上2回生）

なお、2回生8名は、歴史文化学科の専門選択科目「考古学実習Ⅰ／Ⅱ」の一環として、測量調査に参加している。

6. 測量調査の方法

2016（平成28）年度に実施した一須賀D4号墳の測量調査に際して、近つ飛鳥風土記の丘公園の入り口付近に設置されている街区三角点No.1008A（標高101.509m）よりレベル移動を行い、同古墳付近に測量基準杭（標高163.016m）を設置している。今年度はこの測量基準杭から、D8号墳付近までレベル移動を行い、測量調査に必要なベンチ・マークを設定した。

測量には平板を使用し、縮尺1/20、等高線間隔25cmで、墳丘および周辺地形の測量図を作成した。測量調査の基準となるトラバースについては、D8号墳の墳丘および周辺地形をカバーするように開放トラバースを設定した。各基準杭の設定にはトランシットを使用し、原則として、全ての基準杭どうしの角度を90度単位、全ての基準杭間の距離をメートル単位としている。

7. 測量調査の成果

今回、測量調査を実施したD8号墳は、D支群のなかでもやや上方に位置し、南東から北西に向かって延びる尾根上に立地する。

測量調査の結果、D 8号墳は、尾根を削り出して墳丘の大部分を構築していると思われる。墳丘の北西側には平坦面が見られるが、古墳の北側および北東側は自然地形の急傾斜面に連続する。

墳丘上部は削平を受け、横穴式石室の奥壁および側壁のみが遺存する。現状での墳丘最高所（墳頂部）の標高は約140.5mである。先述の通り、墳丘斜面と丘陵斜面の区分は明瞭ではないが、北東側・北側・北西側とも概ね138.0m付近が墳端であると思われる。その場合、墳裾から現状での墳丘最高点（墳丘残存部）までの比高は約2.5mである。

今回の測量調査の結果、本古墳は、東西方向の直径約15.0m程度の円墳と見做される。墳丘の南側は、尾根の斜面に接続しているため、横穴式石室は南ではなく南西方向に向かって開口しているものと思われる。

8. 結びに代えて

今回、一須賀D 8号墳の測量調査を実施し、墳丘の形状・規模などについて、基礎情報を得ることができた。本古墳の横穴式石室については、1973年に大阪府教育委員会による発掘調査が実施されており、今後、出土遺物の図化作業を行っていきたいと考えている。

2023（令和5）年度は、今年度に引き続き、D支群に所在する別の古墳の測量調査を実施したいと考えている。

付記

墳丘測量図（図3）の原図補正は犬木、トレース原図の作成およびトレースは近藤が行った。版組は犬木が行った。原稿執筆は、近藤・松本・田中・北嶋と合議の上、犬木が行った。写真撮影は犬木が行った。

謝辞

測量調査に際しては、下記の諸氏・諸機関のお世話になりました。心より感謝申し上げます。

廣瀬時習、大阪府教育委員会、大阪府立近つ飛鳥博物館、河南町教育委員会

また今回の測量調査に参加いただいた松本祐樹氏・中野徒仁氏（本学卒業生）にも感謝申し上げます。

参考文献

犬木 努・長友朋子・近藤麻美2013「一須賀K11号墳・K12号墳の測量調査」『大阪大谷大学文化財研究』第13号、大阪大谷大学文化財学科、1～10頁

犬木 努・長友朋子・近藤麻美・呉 迪2014「一須賀K 9号墳・K10号墳・K13号墳の測量調査」『大阪大谷大学文化財研究』第14号、大阪大谷大学文化財学科、1～12頁

犬木 努・近藤麻美・呉 迪2015「一須賀L 3号墳および隣接古墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第15号、大阪大谷大学歴史文化学科、11～20頁

犬木 努・近藤麻美・安倍久仁子・松本祐樹2016「一須賀L 4号墳および隣接古墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第16号、大阪大谷大学歴史文化学科、1～10頁

犬木 努・近藤麻美・松本祐樹・吉田昌史2017「一須賀D 4号墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第17号、大阪大谷大学歴史文化学科、23～32頁

犬木 努・近藤麻美・松本祐樹・濱内優佳2018「一須賀D 5号墳・F 3号墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第18号、大阪大谷大学歴史文化学科、1～10頁

犬木 努・近藤麻美・松本祐樹・濱内優佳2019「一須賀F 2号墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第19号、大阪大谷大学歴史文化学科、1～10頁

- 犬木 努・近藤麻美・松本祐樹・中野徒仁・大谷 舞2020「一須賀E1号墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第20号、大阪大谷大学歴史文化学科、23～34頁
- 犬木 努・近藤麻美・松本祐樹・田中 稔2022「一須賀E2号墳の測量調査」『大阪大谷大学歴史文化研究』第22号、大阪大谷大学歴史文化学科、33～44頁
- 上野勝己1966「一須賀古墳群分布調査」『古代学研究』46号、古代学研究会、21～25頁
- 大阪大学考古学研究会2009「一須賀古墳群C-7号墳測量調査報告」『ましかね考古』第18号、1～16頁
- 大阪大学考古学研究会2010「一須賀古墳群C-10号墳測量調査報告」『ましかね考古』第19号、1～25頁
- 大阪大学考古学研究会2011a「一須賀古墳群C-5・9号墳測量調査報告」『ましかね考古』第20号、1～23頁
- 大阪大学考古学研究会2011b「一須賀古墳群C支群分布調査報告」『ましかね考古』第20号、24～26頁
- 大阪府教育委員会1971『近飛鳥遺跡分布調査概要—柏原市・羽曳野市・太子町・河南町—』大阪府文化財調査概要1970-4
- 大阪府教育委員会1975『一須賀古墳群発掘調査概要・Ⅱ—南河内郡河南町東山・奥山所在—』大阪府文化財調査概要1974-14
- 大阪府教育委員会1982『一須賀古墳群分布調査概要—大阪府南河内郡太子町葉室所在—』
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2005『一須賀古墳群の調査Ⅴ D・E・F・J・K・L・P支群』大阪府立近つ飛鳥博物館図録37
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2008『よみがえる一須賀古墳群』
- 大阪府立近つ飛鳥博物館2018『一須賀古墳群を考える』
- 宮崎泰史2006「一須賀古墳群の調査Ⅵ—分布図・出土遺物の再整理作業から—」『大阪府立近つ飛鳥博物館館報』10、大阪府立近つ飛鳥博物館、23～50頁

挿図出典

- 図1 大阪府立近つ飛鳥博物館2008より一部改変
- 図2 大阪府立近つ飛鳥博物館2005より一部改変
- 図3 今回の測量調査により作成（大阪大谷大学歴史文化学科原図）
- 写真1～6 犬木撮影



測量調査の様子



写真1 一須賀D8号墳の墳丘 [南から]



写真2 一須賀D8号墳の墳丘 [南西から]



写真3 一須賀D8号墳の墳丘 [北北東から]



写真4 一須賀D8号墳の墳丘 [北西から]



写真5 一須賀D8号墳の横穴式石室 [南南西から]



写真6 一須賀D8号墳の横穴式石室 (奥壁) [南南西から]

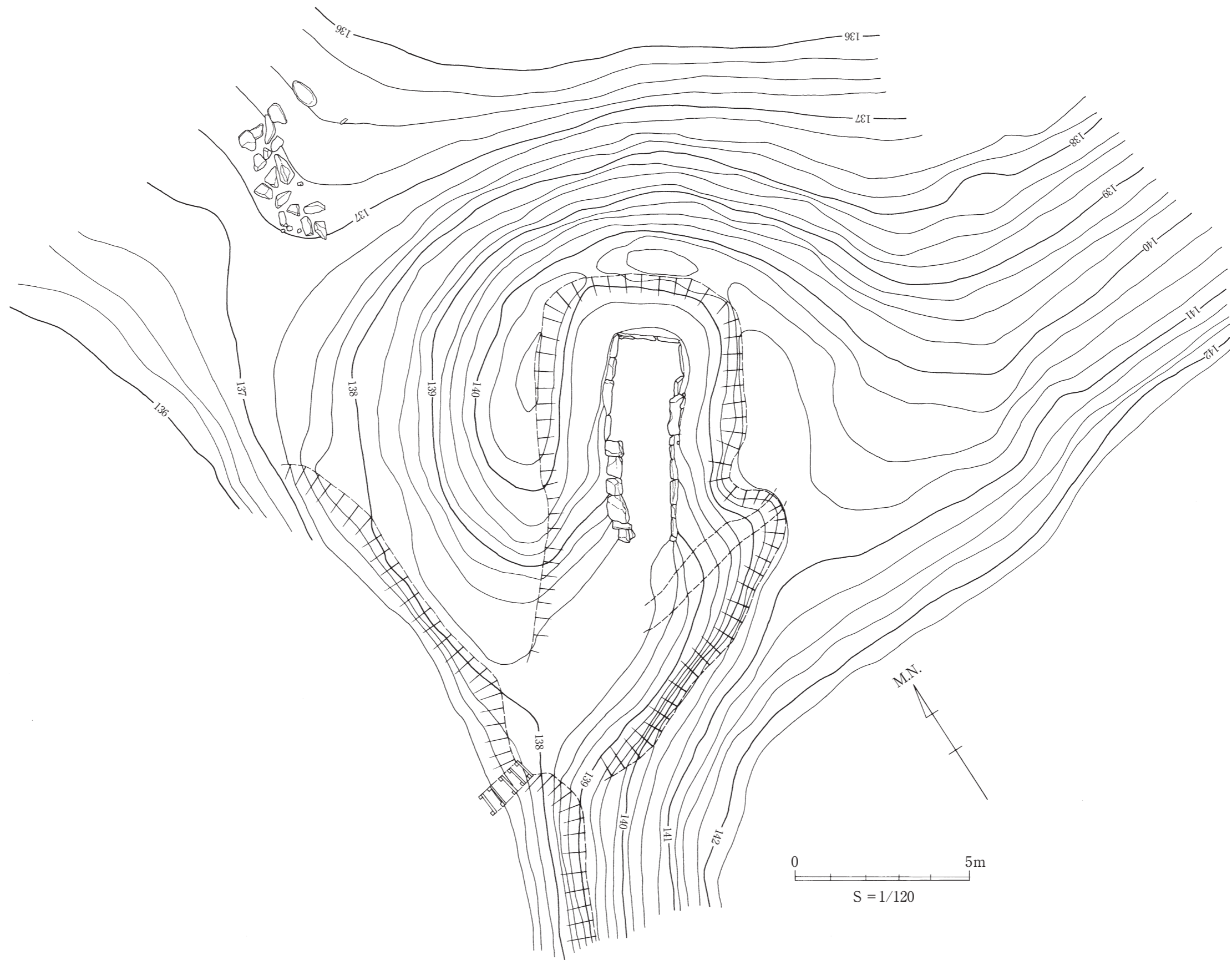


図3 一須賀古墳群D8号墳の測量図 (S=1/120)